



ともに育む

次世代を担う子どもたちや
地域を支える人を
守り育てる



2030年の出雲の姿

出雲力で、次世代を担う子どもたちや、地域を支える人材が育ち、あらゆる分野で出雲を支えています。

学校・家庭・地域で子どもたちが大切に育てられ、子どもたちが自らの力で未来を切り拓こうと、夢の実現に向かってチャレンジしています。

困難を抱える子どもたちに対して、一人ひとりのニーズにあわせて適切な教育が行われています。

市民活動やまちづくり活動が盛んで、良好な地域コミュニティが維持されています。



チャレンジ

85%

～高校生が「出雲に愛着や、魅力・誇りを感じる」
と答えた割合（8年後）～

令和3年度に行った高校3年生を対象としたアンケート調査によれば、「出雲に愛着や魅力・誇りを感じる」は、「ある程度感じる」も含め、81.1%に達しました。これは、出雲で育まれた、地域、学校、市民の関わりの成果であり、出雲に愛着や魅力・誇りを持つ若者を育むことは、定住意向にもつながります。子どもたちが高校生までの成長過程において、ふるさとに貢献したいと思えるふるさと教育を進め、8年後には85%をめざします。

22 家庭・地域・学校で育む出雲の教育を



| 基本方策



| SDGs



質の高い教育で学力アップ

教員の研修会の開催や学校訪問指導などで「質の高い授業への改善」を図り、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現して、学力向上を図ります。

ICT機器の活用で新たな学びのスタイルを

「いずもGIGAスクールプラン」に基づき、児童生徒1人1台のタブレット型パソコンや大型モニターなどのICT機器を効果的に活用しながら、児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。

学びを広げ深める学校図書館へ

各学校での読書活動の推進と授業での調べ学習などで、効果的に学校図書館を活用して、児童生徒の読解力・思考力・表現力等を養い、豊かな心を育みます。

ふるさとへの愛を育む

地域の自然、歴史、文化、伝統行事を通じた、ふるさと教育を充実し、出雲をふるさととして誇りと愛着を持ち、夢や目標を自らの力で実現しようとする子どもを育てます。

家庭・地域と学校が手をつなぐ

地域の教育資源や地域住民の思いを生かした教育課程を編成するなど、家庭・地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの「生きる力」を育みます。

出雲ならではの学び体験を

出雲科学館を活用した理科学習や、総合的な学習の時間をはじめとした体験学習の充実を図り、創造性豊かな人材の育成をめざします。



子どもの育ちをなめらかにつなぐ

幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校への進学時の教育の接続を円滑に行うとともに、子どもや保護者の不安や戸惑いを軽減するために、計画的に保幼小中の連携を支援します。

一人ひとりの子どもの成長を支える

- 幼児・児童生徒の支援の多様化に対応するため、関係機関と連携し、継続して切れ目のない支援を行うことで、一人ひとりを大切に特別支援教育の充実を図ります。
- 不登校・いじめ・問題行動等の解決も、小・中学校の喫緊^{きつぎん}の課題となっており、未然防止はもとより、早期に発見し組織的に対応するとともに、教育支援センター等での支援体制の充実・強化を図ります。

日本語指導で広がる子どもの希望

日本語指導が必要な帰国・外国籍の子どもたちに、日本語の確実な習得等ができるように支援するとともに、将来の目標や夢を持つことができるようキャリア教育の実施などの支援を行います。

安全・安心でおいしい学校給食を

学校給食に地元産食材を積極的に使用することにより、安全・安心な給食を提供し、地域への愛着や生産に携わる方々への感謝の心を育み、子どもたちの健全な心身の育成を図ります。

学びの場を整える

- 学校施設の耐震化を早期に完了するとともに、学校再編による新設校や今後必要となる教室数を確保するための整備に取り組みます。
- 老朽化の著しい施設は長寿命化改修することを基本とし、学校規模に対し狭隘なものは改築を進め、学びに集中できる教育環境の整備を行います。

photo

photo

23 人が地域を、地域が人を育てる



| 基本方策



| SDGs



市民協働の力が地域課題を解決

市と市民団体の連携のもと、地域の抱える課題について考え、創意工夫する自主的・主体的な市民活動を促進するため、市民団体が行う活動に関する情報提供や支援を行います。

多様な学びを地域で生かす

地域に関心を持ち、地域課題の解決に向けた役割を果たす「人づくり」を進めるとともに、子どもの育ちを核とした、多様な他者と連携・協働する「つながりづくり」を進め、市民の多様な学び・活動を「地域づくり」へつなげます。

NPO法人等の力を伸ばす

NPO法人等の活動の多様性や自主性を尊重し、特定非営利活動の健全な発展を促進するとともに、意見交換会も含めたネットワークづくりや相談業務などの支援を行います。

ボランティア活動のススメ

- ボランティア意識の啓発・普及に努め、ボランティアに関する情報の収集や紹介、人材育成、相談業務の拡充に努めます。
- 総合ボランティアセンターなどで、ボランティア団体の活動を支援するとともに、ボランティアのネットワークの拡大や災害時に対応できるボランティアの啓発や推進に取り組みます。

自治会加入で暮らしに安心を

自治会は安全で安心なまちづくりの実現に不可欠な、最も身近な住民自治組織です。持続可能な自治会活動に向けて、自治協会等の自治会加入促進の取組や、地域課題解決に向けた取組に対し、支援を行います。

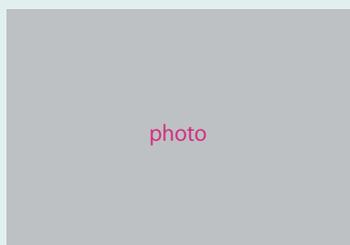


“コミセン”が43のふるさとを支える

- 市内43コミュニティセンターは、地域に一番密着した市の施設として、住民主体のまちづくり事業を支援します。
- 市民協働活動及び地域防災の拠点であるコミュニティセンターのデジタル化を推進し、一層の連携強化を図ります。

高等教育機関との連携で地域課題を解決

- 高等教育機関等との連携協定により、人材育成、産業振興、保健・医療・福祉の向上など多様な分野で連携・協力を進めます。
- 魅力ある地域づくりへの学生の参画を進めるなど、地域の未来を担う人材の育成に努めます。





ともに 楽しむ

誰もが住んで楽しく

訪れて楽しい出雲をめざす



2030年の出雲の姿

出雲力で、芸術文化・スポーツ面などの出雲を楽しむ環境が整い、誰もが魅力を感じ、楽しめるまちとなっています。

生涯学習、芸術文化、歴史、スポーツ活動などを推進することで、市民が楽しみや喜びを感じ、ふるさと出雲への誇りや愛着を持って暮らしています。

様々な手段を活用して出雲の魅力を積極的に発信し、出雲に対する人々の興味・関心を引き出しています。

必要な情報を分かりやすく伝え、市政への理解・関心を高めることで、市民参加のまちづくりが行われています。



チャレンジ

2200万人

～生涯学習等施設利用者数（8年間）～

コロナ禍前の平成 30 年度に生涯学習等施設（※）を利用した人は、年間延べ約 268 万人。市民生活をより充実したものにするために、学び楽しみ、人生をより豊かにするために、生涯学習等を行う公共施設の利用者を 8 年間で 2,200 万人（年平均 275 万人）にすることをめざします。

※生涯学習等施設：出雲市民会館等の市民文化施設、図書館等の社会教育施設、体育館等のスポーツ施設、コミュニティセンター

24 芸術文化で豊かな出雲を

| 基本方策



| SDGs



芸術文化でこころ豊かに

- 心の豊かさが真に実感できる芸術文化の都出雲の創造の実現をめざします。出雲総合芸術文化祭や出雲芸術アカデミーなどを通して、鑑賞機会や発表機会を充実させ、誰もが気軽に芸術文化に接する機会の提供に努め、市民の積極的な参加促進を図ります。
- 音楽活動を出雲の特色ある活動として、「音楽のまち出雲」の推進に努めます。

芸術文化を支える人づくり

伝統芸能をはじめとする芸術文化を次世代に伝えていくため、子どもたちが芸術文化に触れる機会を充実させるなど、人材育成に努めます。

出雲が誇る文化資源を世界へ発信

地域の歴史や文化遺産、出雲を題材にしたメディア芸術(映画、漫画、アニメーション)や地域伝統芸能の祭典など、国内外へ出雲の文化資源を活かした情報発信の取組を進めます。

photo

photo

photo

25 スポーツで元気な出雲を

基本方策



SDGs



「する」「みる」「支える」スポーツへ ～Enjoy Sports Enjoy Life～

- 『「夢を育み、人を結び、まちが輝く」スポーツ文化都市・出雲の創造』の実現をめざします。市民一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、触れることのできる環境づくりを推進します。
- 長年地域の方々に支えられている、大学三大駅伝の「出雲駅伝」をはじめとするスポーツイベントを引き続き開催し、スポーツ振興とともに、スポーツツーリズムやシティセールスなど、交流人口の拡大や地域の活性化につなげます。
- 令和6年(2024)春に開館を予定している新体育館をはじめとした市内スポーツ施設について、市民が身近にスポーツに取り組める環境づくりに努めます。
- 新スポーツとしてのeスポーツ(ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称)を推進します。

スポーツを支える人づくり

- スポーツ団体や企業と連携して、指導者の育成・確保に努めます。
- スポーツイベントの運営を支えるボランティアの育成に努めます。

自分を超えろ、神話をつくれ ～島根かみあり国スポ・障スポ～

令和12年(2030)に島根県において開催予定の、国民スポーツ大会を見据えた競技力向上、全国障害者スポーツ大会を見据えた障がい者スポーツの普及促進を図るなど、県とともに様々な取組を前へ進めます。

ともに楽しむ



photo

photo

26 誰もの「学びたい」を実現

| 基本方策



| SDGs



地域で学び、楽しむ

本市の地域特性を活かし、地域の歴史や文化などについて学ぶ講座を開催します。その学習成果により、コミュニティを支えていく人材を育成し、市民が自ら地域課題の解決に参画できる社会の構築を進めます。

なんでも見つかる情報の宝庫

図書館においては、図書、郷土資料、新聞・雑誌、インターネット上の情報など幅広い資料の収集と提供を行い、市民の読書活動を支えるとともに、自主的な調査・研究や学習活動を支援します。

子どもと本のかけ橋に

豊かな心を育て、主体的に学び、たくましく生きる力を育てるために、図書館を核とし、家庭、学校、地域の読書ボランティア等と連携して、発達段階に応じた子どもの読書活動を推進します。

photo

photo

27 出雲の魅力、発信します



基本方策



SDGs



ともに楽しむ



出雲ファンを増やす

- デジタルマーケティングの手法により、ウェブサイトへ誘導することで、主に県外に向けて本市をPRし、出雲ファンの増加につなげます。
- ふるさと納税を活用し、多くの人とご縁を結び、交流人口や関係人口の創出と拡大につなげます。

「いずもな暮らし」からはじめよう

移住支援情報や空き家情報など暮らしの情報を伝えるサイト「いずもな暮らし」や出雲で働く(活躍する)人「出雲人」に着目し、産業を紹介するサイト「出雲人-IZUMOZINE-」の充実を図り、「魅力」、「暮らし」、「しごと」の情報を伝え、市内への移住、就労につなげます。

日本中を駆ける!ヤマタノオロチ(出雲ナンバー)

出雲版図柄入りナンバープレート(出雲ナンバー)の普及促進を図り、出雲ナンバーを付けた自動車を走る広告塔として活用することで、出雲の認知度向上やイメージアップを図ります。

みんなに伝わる出雲の情報

市民が主役のまちづくりの実現のため、市民が必要とする情報をより分かりやすく伝えることで、市政への理解と関心が高まる広報活動をめざします。

photo

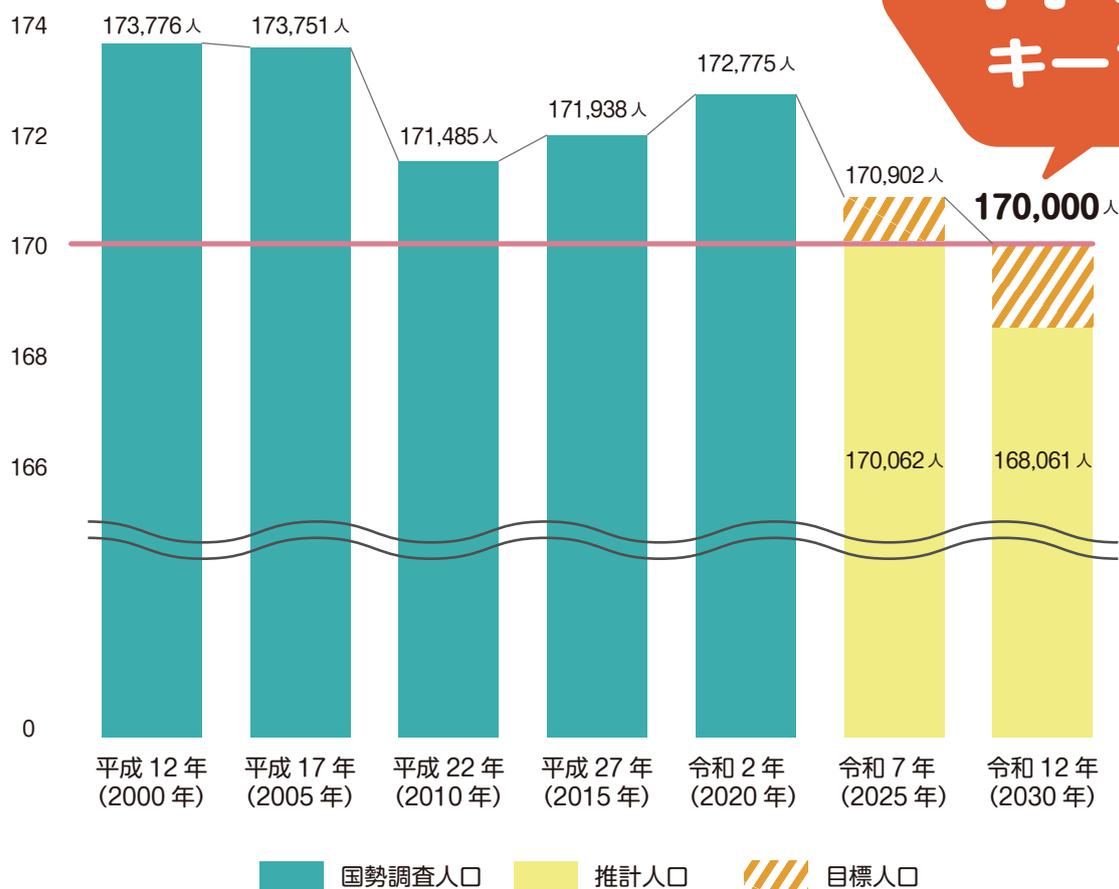
photo

photo

目標人口

令和 12 年 (2030 年)

(単位：千人)



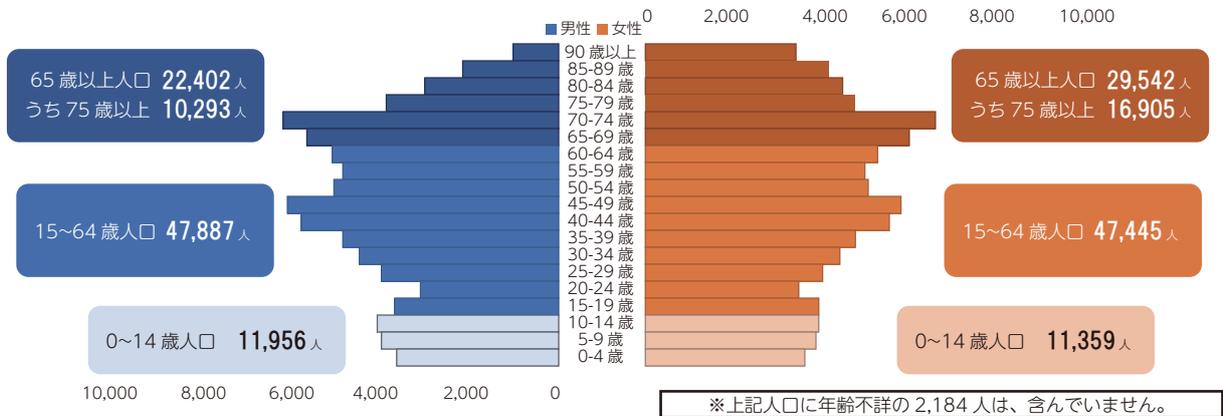
令和 2 年 (2020) 3 月に策定した本市人口ビジョンでは、長期的にみると総人口の減少傾向が続き、令和 12 年 (2030) には 17 万人を割り込み 16 万 8 千人になると推計しています。

人口減少・少子高齢化の進展は、社会保障をはじめとする行政サービスの拡大を招く一方で、社会経済活動の縮小により税収の減少などにつながります。また、地域活動や地域行事・文化の継承が困難となり、ひいては地域コミュニティの崩壊につながることも考えられます。

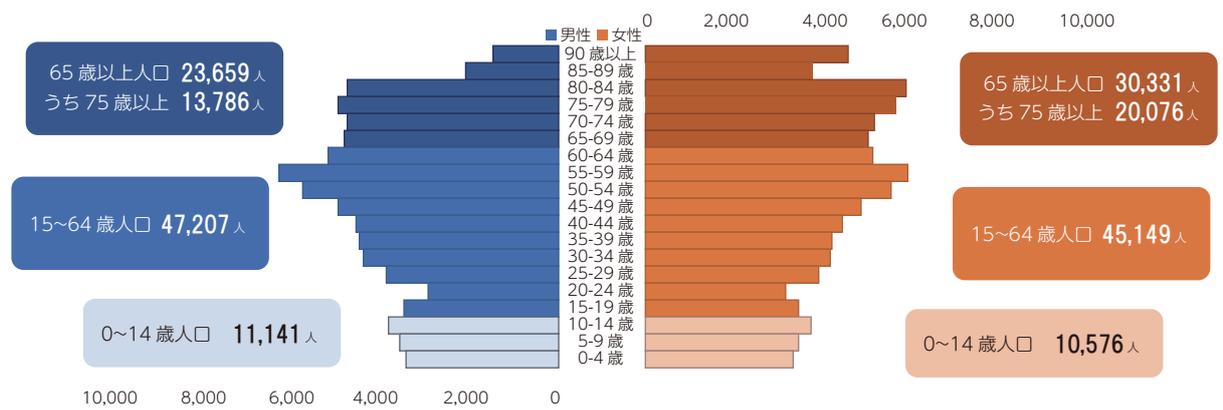
本市においては、雇用の場や働く人材の確保、移住・定住対策、結婚から子育てまで切れ目のない支援に加え、新しい時代の流れにも対応しながら、若者の夢がかなえられる、誰もが生き生きと活躍できる、そしてどこに住んでいても安全、安心に暮らせるまちづくりを進めることで、令和 12 年 (2030) の人口 17 万人維持をめざします。また、特に山間部や海岸部などの人口減少が顕著な地域においては、それぞれの地域が抱える個別課題を多様な視点から整理し、分野横断的な施策を展開することで課題解決につなげます。

将来人口推計と目標人口推計

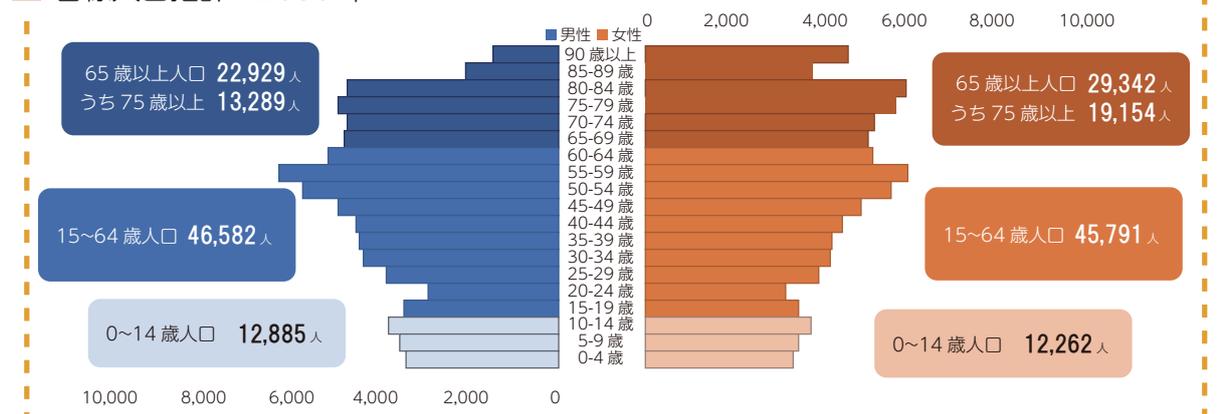
出雲市 人口ピラミッド 2020年(令和2年国勢調査)



将来人口推計 2030年(H30社人研(※)推計準拠)



目標人口推計 2030年



本市人口ビジョンでは、2060年に向けて、出生数が減少し、年少人口（0歳～14歳）の割合が少ない「つぼ型」の人口ピラミッドになると推計しています。この年少人口割合の減少傾向は、2030年推計人口において既に現れており、早期の対策が必要です。

目標人口では、出生数の増加や社会増により、年少人口を増加させることで、人口増減の均衡がとれた「つりがね型」の人口ピラミッドとなるよう、年齢構成のバランスの改善をめざします。

※平成30年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した人口推計

エリア別将来像 を描くために

各地区に聞いた 2030 に向けたまちづくりへの思い

川と水辺・柳・桜の風景に
人が集いにぎわう街なみ

稲穂と築地松が
映えるまち

ものづくり、
健康づくり、
仲間づくり、
まちづくり

生まれ育って、
生涯住んでいたい。
帰って来れるまち

様々な世代の人が、
つながり結びつく
ことで、活力あふ
れるまち

輝くいやしの
まちづくり

地区をまたいだ広域の
連携で周辺地域との
関係を強化し、相互
補完できるまち

素直で明るい
子どもたちを
地域みんな
で育て、導き、
見守る地域



学生が地域に
溶け込む交流
のまち

海を生かしたレジャーで
人が移住し賑わっていて
欲しい

人の絆をつなぎ、
豊かな自然環境と
文化財を守るまち

地域の観光資
源を生かして、
交流人口を増
やし活性化す
るまち

自治会加入率を
上げ、福祉型の
安全安心なまち
をめざす

祭、ゆたかな自然で
人がつながるまち

若い人の意見
を取り入れ、
若い人と高齢
者が住みやす
いまち



エリア別将来像

めざすべき都市のかたち

本市は、北部は島根半島、中央部は斐伊川と神戸川の二大河川により形成された出雲平野、南部は中国山地で形成され、海、山、川、湖、平野と多彩な自然に囲まれた都市です。

そこには、一定の人口が集積する大中小の拠点が形成され、それぞれに特色ある地区の魅力ある歴史や文化がつくられてきました。

この、特色ある地区の魅力を生かすため、人と人とのつながりや、デジタルの力も活用して、それぞれの一定の人口が集積する拠点を結び付け、連携しながらネットワークを築き、都市の発展をめざします。

交流人口・関係人口 増進エリア

豊かな自然や歴史文化を生かして、
地域内外の人と人とのつながりを
創り、活力を生み出すまちづくり

西の玄関エリア

海と湖と夕日の最高のロケーション
を生かして、高速道路の開通に
よる新たな人の流れを受け止め、
賑わいを生むまちづくり





東の玄関エリア

出雲縁結び空港、斐川インターチェンジ、雲州平田駅エリアで国内外の多くの観光客を受け入れ、アクセスの良さを生かした、活気あふれるまちづくり

東部交流エリア

木綿街道など、懐かしい街並みと歴史文化を生かして、ヒト・モノ・コトが行きかうまちづくり

田園景観と住空間の共存エリア

築地松や田園がおりなす風景と文化を大切にのこし、誰もが心地よく暮らせるまちづくり

中心市街地形成エリア

あらゆる都市機能の集積を生かし、地域経済、医療・福祉、行政の中心となって市内の各拠点をつなぐまちづくり

エリア別将来像

地域経済の好循環を生む 産業別の重点エリア

力強い地域経済の実現のため、各地域の特色ある資源を生かした産業を重点産業として示しています。

重点産業の成長により、市民の生活基盤を安定させるとともに、「若者の夢がかなうまち」「選ばれるまち」としての発展をめざします。

市内観光はここから始まる 滞在型観光エリア

集客力の高い大社、日御碕エリアを拠点に、多くの交流人口を生み出し、観光客を市内全域の魅力ある観光資源に誘導することで、周遊滞在型の観光産業としての成長を促します。





環境と産業のミックスアップ 環境配慮型産業 クリエイティブエリア

豊富な森林資源や水産資源を有効活用し、自然環境に配慮した持続可能な産業を振興します。
また、太陽光、風力などの再生可能エネルギーを活用し、脱炭素社会に向けた新たな環境産業を創出します。
(再生可能エネルギー発電所は、電源種別ごとに市内最大施設のみ掲載)

地域経済の原動力 企業カパワーアップエリア

工業団地への多様な企業の進出に向けた基盤整備を進めるとともに、サテライトオフィスを活用し、若者やUターン者の働く夢がかなう環境を整えます。

新しい農業のカタチで未来を創る 農業“新”興エリア

基幹産業である農業の持続的な発展をめざし、スマート農業の推進や、ブランド化による特産品の生産拡大・高付加価値化を支援します。

● : コミュニティセンター ■ : 都市計画区域の用途地域